

国指定天然記念物「九十九島」を有する象潟町。島の象徴とも言える松林が松くい虫被害により消滅の危機となり、その美しい景観を守り後世に引き継ぐため地域住民らが「九十九島の松をまもる会」を設立、害虫根絶に向け様々な取組みを展開しています。

地域住民らが守る天然記念物「九十九島の松」（象潟町）

芭蕉も詠んだ国指定

天然記念物「九十九島」

日本最大勢力の森林病害虫

「マツノザイセンチュウ」

2千400年前、霊峰鳥海山の噴火による土石流により出来た大地が日本海の荒波に洗われ、一面遠浅の「九十九島」と称される島々が形成されました。その美しさは松島と並び称され、俳人松尾芭蕉もその素晴らしい景観を見て「象潟や雨に西施がねぶの花」と315年前に詠っています。ちょうど200年前の文化元年（1804年）、鳥海山の噴火と大地震により地盤が隆起し、陸に点在する現在の「九十九島」となり、昭和9年に国の天然記念物に指定されました。

日本各地で甚大な被害をもたらしている、松くい虫被害は、マツノマダラカミキリという昆虫によって運ばれるマツノザイセンチュウ（体長1ミリの満たない線虫）が松に寄生して松を枯らす被害のことを言います。

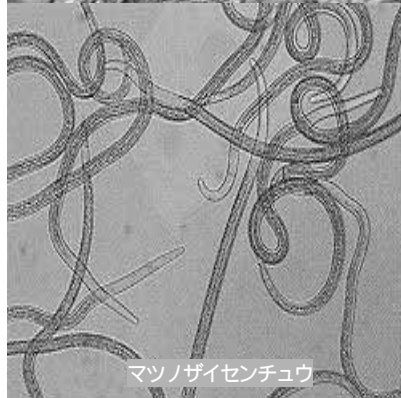
このマツノザイセンチュウは、明治以降に外国から輸入された木材によって運ばれてきた外来の線虫で、現在北海道・青森県を除く45都道府県にまん延し、我が国最大勢力の森林病害虫となっています。



平成初期の真の空から望む「九十九島」



マツノマダラカミキリ



マツノザイセンチュウ

松くい虫被害サイクル

枯れた松の木の中で越冬したカミキリはサナギになり羽化して成虫になります。このときセンチウがカミキリの体内に入り込み、センチウを抱え外に飛び出します。

カミキリは、夏の間健全な松から松へと飛び回り松の小枝の皮を食べます。

この時カミキリの体内に侵入していたセンチウがカミキリの食べた傷口から松に侵入し爆発的に増えつづけ松を枯らします。

このセンチウによって衰弱した松にカミキリが卵を産み付けます。

カミキリは松の中でふ化し柔らかい皮を食べて成長し越冬します。このサイクルが被害を拡大していきます。

地域住民によるボランティア団体「まもる会」設立

昭和57年、本県の松くい虫の被害は山形県との県境にある象潟町で初めて確認されました。町では、それ以前から北上する松くい虫被害から国

指定天然記念物である「九十九島の松」を守るため、県などの関係団体と一体となって防除・駆除対策を講じ、その被害を最小限にとどめて来ま

した。しかし、松くい虫の防駆除には膨大な経費がかかるため町の財政を圧迫、被害は年々増加の一途をたどり、町の対策だけでは手に負えなくなりました。

このままでは、町民共有の

財産である「九十九島の松」が年々減少し、消滅の危機さえあるため、もっと町民から関

心を持つてもらおう、危機感を持って頂こうと、地域全体でこの松を守っていくことを町が提案したのでした。

町民はもとより漁業協同組合、建設業協会、婦人団体、旅館業組合、農業団体など様々な個人や団体などと呼びかけ、「九十九島の美しい景観を後世に引き継ぎ、地域の宝を守っていくことを目的に、地域住民によるボランティア

団体「九十九島をまもる会」（齋藤昭治郎会長）が平成11年9月に設立されました。

種々の防駆除活動と天然記念物ゆえの苦労

まもる会は、一般会員（個人）と賛助会員（団体等）からの会費

で運営され、会費のほとんどは防駆除対策に活用されています。

会の主な活動内容は、1月から2月にかけて健康な松の木に穴をあけセンチウの侵入を防ぐ薬剤を注入する樹幹注入剤の設置、松活

性酵素の散布、無人ヘリや噴霧器によるカミキリの駆除、全員作業による下刈りや松苗

の植栽、樹勢調査など、また、先進地の調査研修や、研究者や樹木医などの講師を招いての研修会等年間を通して様々な活動がなされています。

当初は、天然記念物がゆえに現状維持が原則という縛りから、下刈りや虫に侵された松の伐倒、枯れ枝を片付けることすら出来ず、国・県に確認を取りながらの活動が続きました。

また、新しい松を植えるのもこの地域の松でなければならず、会員らが島から松ボツクリを採取して種から松苗を育てる苦労も惜しみません。

取組みが認められ「林野庁長官賞」受賞

島



島の松ボツクリの種から育てられる松苗

現在、秋田市から海岸沿いの国道7号線を通って南下し、県境の象潟町までの海岸線は、松林が壊滅的な被害を受け、かつての白い砂浜と青々と茂った松林のコントラストは、今は見る影もありません。

しかし、象潟町に入ると青々とした松林が生い茂っています。「九十九島をまもる会」や町の取組みが被害を最小限に抑えている証でありま

す。象潟町はその取組み活動が認められ、平成14年度の「林野庁長官賞」を受賞しました。

「島守り制度」により活動の広がり期待

しまも

町では、町内外を問わず更に多くの方たちに「九十九島」を守っていただく試みとして

「島守り制度」を導入しました。これは、自分が好きな島を町に申し出て、「島守り」として島の見回りやごみ拾い、下刈りや被害調査協力等の活動を行うて頂く制度で、現在14島に12（個人4・団体8）の島守りがあります。

「まもる会」や町では、島守りの登録者が増えることで

九十九島の松を守っていく活動が更に広がって行くことを期待しています。

活動を次世代に継承し後世に誇れる九十九島を

九十九島103島のうち町有の島は66島。町では今後、活動が有効に行われるよう、年次計画で個人所有の島を買上げていく事としています。

また、島の松も高齢化しており、今、後継木への転換を積極的に進めています。立派な松に成るには100年以上の歳月を要しますが、この活動を若い世代、そしてそのまた次の世代へと継承し、後世に誇れる九十九島であるよう、「九十九島をまもる会」の取組みに期待するところです。



6月中旬、春に植栽した松苗の周囲を丁寧に草を刈り、松活性酵素を散布します。